

●大腸がんの検査

便潜血検査

便に混ざっている血液を検査する。便に付着した目には見えない微量な血液でも調べることができる。

利点 ①安心 ②簡単 ③安い

欠点 発見率 **70%** 毎年受けることにより上がる。

2日間に分けて便を採取。
1回でも陽性反応があれば精密検査



精密検査

(大腸内視鏡検査) 病理組織検査

便潜血検査受診率
豊中市
23%
(平成21年度)

●大腸がん検診の有効性 1990年から2003年まで追跡調査。

597人が大腸がん、132人が死亡。(40-59歳の男女42,150人)

検診を受けていた人

(受けていなかった人と比較)

- がんが早期で発見される可能性が**30%**高い。
- 進行してから診断される危険性は**60%**低下。
- 大腸がんによる死亡率が約**70%**減少。

●予防

危険因子

肥満
加工肉の摂取
過度の飲酒

予防因子

運動
野菜や果物の摂取

大腸がんは早期に発見し治療すればほぼ100%完治する病気です。

自覚症状がなくても、40歳代になったら毎年「便潜血検査」を受けましょう。

●前立腺がんとPSA検診



泌尿器科 医長
今津哲央

前立腺は、男性の膀胱の下にあるクルミ大の器官で、膀胱の出口にあり尿道をとりまいています。前立腺がんは、高齢化、食生活の欧米化などによりわが国でも急増しています。初期には無症状なことが多く、気付かないうちに進行していることがあります。



危険因子

- 加齢 (50歳以上で罹患率増加)
- 食生活の欧米化
- 遺伝的要因 近親者(親・兄弟・子)に前立腺がん患者がいる

65歳以上患者数
1位

平成17年患者調査
(厚生労働省)

●前立腺がんの検査

早期診断にはPSA検査が有効

- ・前立腺がんの腫瘍マーカー
- ・1ccの血液で検査可能
- ・他のがんでは上昇しない
- ・前立腺肥大や炎症でも上昇

●日本とアメリカのPSA検診率と進行がん比率の差

	日本	米国
PSA検診率	3-5%	70-80%
進行がん比率	30%	5%以下

●PSA検診実施状況 (大阪府)

平成22年10月現在

池田市、箕面市、茨木市、高槻市、交野市、寝屋川市、守口市、和泉市、泉大津市、泉南市、阪南市が実施。

診断時に進行前立腺がんの患者さん割合 (当院データ)

23%

平成19年

12%

平成21年

当院で診断される前立腺がんのうち、診断時に既に転移を有する方の割合は低下傾向にあるものの、他市と比較すると依然高くなっています。

50歳を過ぎたら PSA 検査を受けましょう。